

講義コード	1195	科目区分	専門教育科目(ビジネス文化専攻)
(フリガナ)	セカイ・アジア・ニホン	(フリガナ)	イ ムンサン
授業科目名	世界・アジア・日本	担当教員名	李 文相
英文授業科目名	The world・Asia・Japan		
基準年次(開講期)	2年生(後期)	履修形態	選択
曜日/時限/講義室	月曜日/5時限/312号		
授業の方法	講義	授業の方法(詳細情報)	講義は、DVDや新聞を用いて時事専門家らの発言を紹介する。
単位	2	週時間	2
授業のキーワード	マイノリティ、移民・難民、定住外国人、多文化		
授業概要・目的	<p>本授業の主なポイントは次の3つです。</p> <p>1) 新聞やテレビ等で接する国際ニュースや国家間の問題等について、その背景にある歴史的・地理的条件等を理解する。</p> <p>2) 日本における定住外国人の問題を国際的な視点で考える。</p> <p>3) 世界のマイノリティやエスニックの問題について関心を深める。</p>		
到達度評価の評価項目	<p>到達度評価項目は次の三つです。</p> <p>1) 国家間の紛争についての理解力や、異なる文化への受容力。</p> <p>2) 近隣諸国の歴史観の違いについての基本的な理解力。</p> <p>3) 世界のマイノリティやエスニックの問題が何に起因しているかについての洞察力。</p>		
授業計画			
第1回	<p>ガイダンス</p> <p>授業の進め方、受講上の留意点、テキストの案内。</p>		
第2回	<p>国際ニュースや国家間の問題について</p> <p>国家間の背景にある歴史的・地理的条件について。</p>		
第3回	<p>EU(ヨーロッパ共同体)の問題</p> <p>一つのヨーロッパへの危機、今何が問題なのか。</p>		
第4回	<p>東西冷戦の以前と以後</p> <p>ベルリンの壁崩壊の前後とその後の世界について学ぶ。</p>		
第5回	<p>移民と難民について</p> <p>マイノリティの権利主張、外国人労働者の問題について学ぶ。</p>		
第6回	<p>近隣諸国への理解(1)</p> <p>日本周辺国の置かれた世界状況を理解する(韓国・北朝鮮・中華人民共和国)。</p>		
第7回	<p>近隣諸国への理解(2)</p> <p>巨大な中国の抱える問題について戦前を見つめる(中華人民共和国・台湾)。</p>		
第8回	<p>近隣諸国への理解(3)</p> <p>巨大な中国の抱える問題について戦後を見つめる(中華人民共和国・台湾)。</p>		
第9回	<p>ロシアとの問題</p> <p>ロシア、ソ連、ロシアの抱える問題に迫ってみる。</p>		
第10回	<p>中東問題(1)</p> <p>アフリカ、南アメリカの宗教・民族対立。</p>		
第11回	<p>中東問題(2)</p> <p>テロと世界の動きについて。</p>		
第12回	<p>中東問題(3)</p> <p>歴史と関連づけて考える。</p>		
第13回	<p>南アフリカの歩み</p> <p>アパルトヘイトと反アパルトヘイト運動。</p>		
第14回	<p>グローバリゼーションの問題点</p> <p>グローバリゼーションの光と影、格差の増大、フェアトレード交易の実態。</p>		
第15回	<p>総括・まとめ</p> <p>レポート課題の作成と発表。</p>		
教科書・参考書等			
授業で使用する機器等	授業では映像機器を使用して時事専門家の発言を参考にしながら進める。		
予習・復習へのアドバイス	授業で行う意見交換会のために、日ごろからTVや新聞等を通じて世界情勢に関心を持つこと。		
履修上の注意・受講条件等	<p>・必ず予備知識を得てから授業に臨むこと。</p> <p>・専用ノートを持参すること。</p>		
成績評価の基準等	<p>以下の観点から評価する</p> <p>1) 授業に取り組む姿勢(20/100)</p> <p>2) 授業での意見発表(20/100)</p> <p>3) 授業で行う小レポート(20/100)</p> <p>4) 課題レポート提出(40/100)</p>		
メッセージ	遅刻厳禁。授業中は携帯電話の電源を切る。		
オフィス・アワー	火曜日の午前(9:00-12:00)		
その他			